

「多文化対応力強化による国際医療コミュニケーション実践プログラム」第1回講義を開催しました

神戸大学医学部附属病院では、2025年12月26日（金）に、楠キャンパス研究棟B大会議室において「多文化対応力強化による国際医療コミュニケーション実践プログラム」第1回講義を開催しました。このプログラムは、本学「教育における社会貢献（リカレント教育）推進助成金事業」の支援を得て国際ナショナル・メディカル・コミュニケーションセンター（IMCC）が企画し、神戸市外国語大学と連携して実施するものです。

第1回は、神戸市外国語大学国際関係学科准教授の前村奈央佳先生を講師としてお迎えし、「外国人患者と向き合うためにー異文化間コミュニケーションの基礎：医療現場での異文化理解に向けてー」と題した講義を行っていただきました。医療現場における異文化理解の重要性や異文化間コミュニケーションのための基礎知識についてお話しいただき、受講者は、熱心に耳を傾けました。講義後は、受講者を交えて現場でのエピソードや日頃実務にあたる中で直面する課題について共有し、活発に意見交換が行われました。

このプログラムは、本院の職員のみでなく、兵庫県下の医療機関に勤務する職員や学生にも公開し、2026年4月にかけて全4回のシリーズとして実施しています（各回講義の内容・お申込みについてはこちら→[プログラム一覧](#)）。増加する海外の患者様へより安心して充実した医療を提供できるよう、このようなプログラムを通じて、引き続き医療機関の職員等へのリカレント教育の機会を創出したいと考えています。

